



# 2005年3月期 業績概要

2005年4月28日

アンリツ株式会社

社長 塩見 昭

(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

# 2005年3月期の総括

## 1. 「利益ある成長」の開始

売上：840億円（対前期比＋7%）

営業利益：49億円（対前期比＋31億円）

経常利益：20億円（対前期比＋45億円）【黒字化達成】

## 2. 売上動向

事業別：計測器は対前期比16%UP 3G計測器が牽引

地域別：日本は対前期比8%UP、米州は16%UP

# 05年3月期業績概要

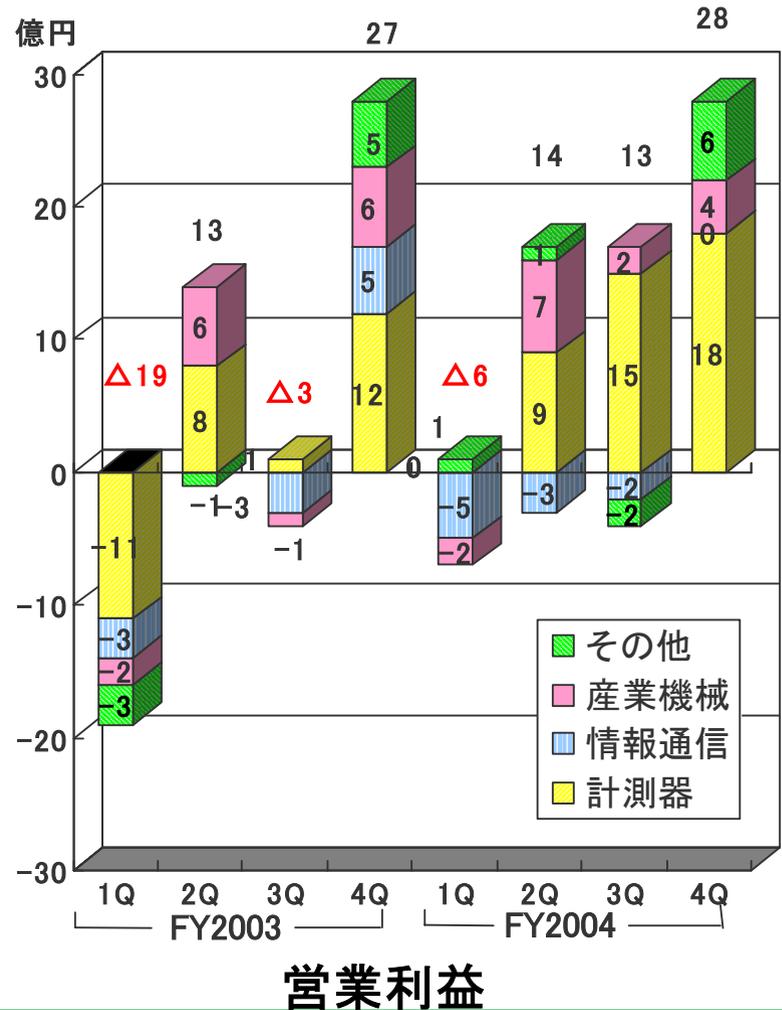
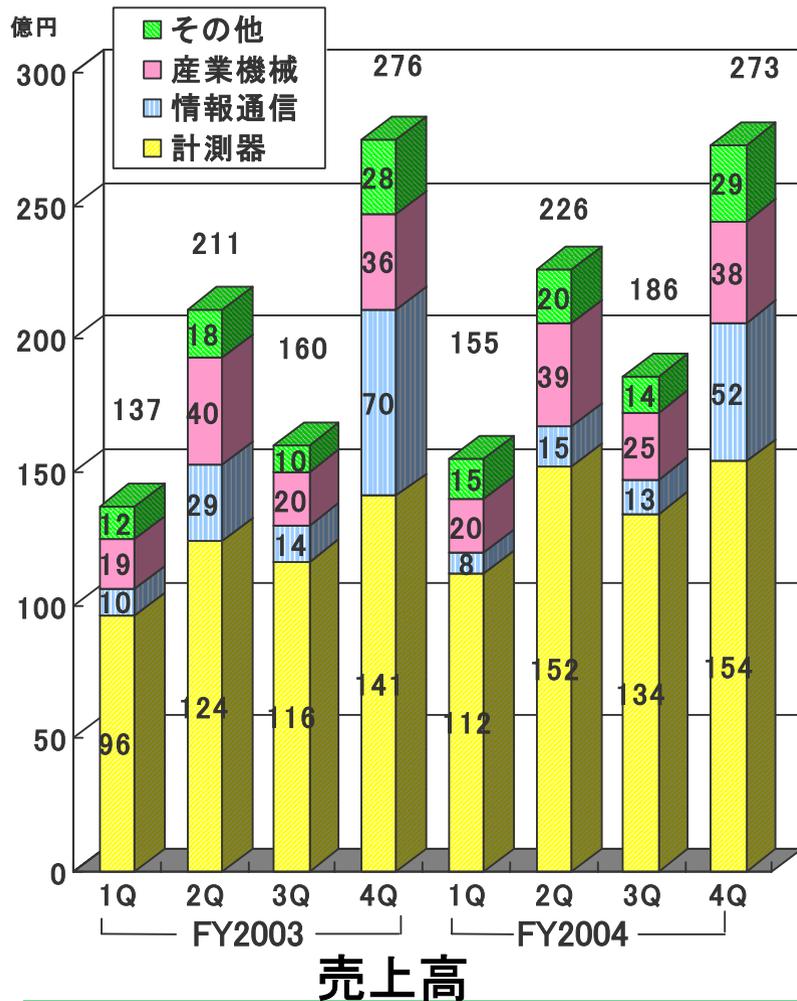
(1)損益およびキャッシュ・フロー 単位:億円 ( )は前年同期比増減額 △:損失

	2005年3月期(2004年度)				前期(2003年度)	
	連結		単独		連結	単独
売上高	840	(+56)	497	(+22)	784	475
営業利益	49	(+31)	19	(+17)	18	2
経常利益	20	(+45)	11	(+35)	△ 25	△ 24
税引前利益	21	(+2)	12	(-4)	19	16
当期純利益	13	(+2)	13	(0)	11	13
FCF	82	(-21)	24	(-75)	103	99

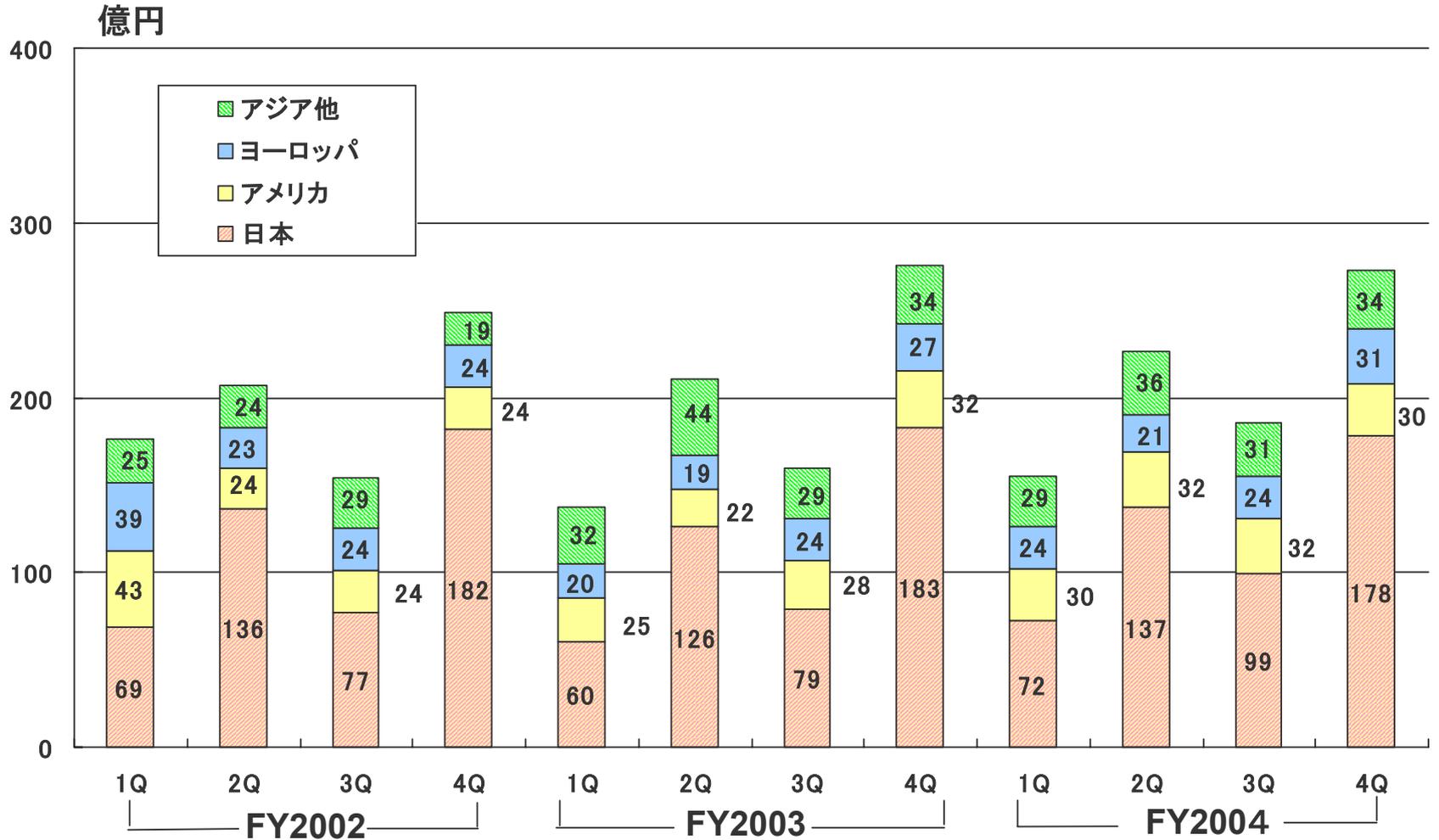
(2)事業セグメント別(連結) 単位:億円 ( )は前年同期比増減額 △:損失

	2005年3月期(2004年度)				前期(2003年度)	
	売上高		営業利益		売上高	営業利益
計測器	552	(+75)	42	(+32)	477	10
情報通信	87	(-37)	△ 10	(-8)	124	△ 2
産業機械	122	(+8)	10	(+1)	114	9
その他	78	(+9)	6	(+5)	69	1
計	840	(+56)	49	(+31)	784	18

# 事業セグメント別業績(連結)

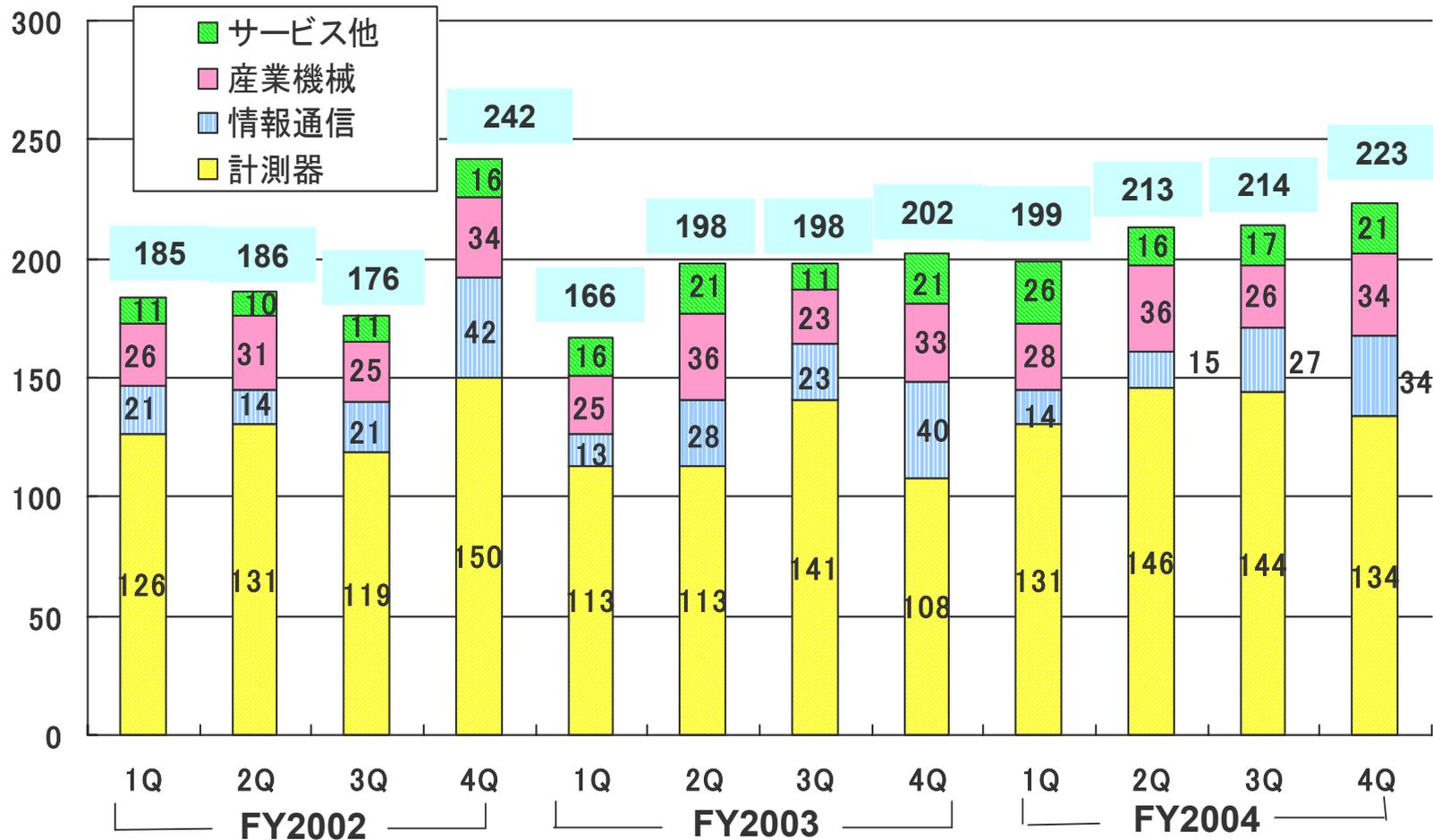


# 地域別売上高推移（連結）

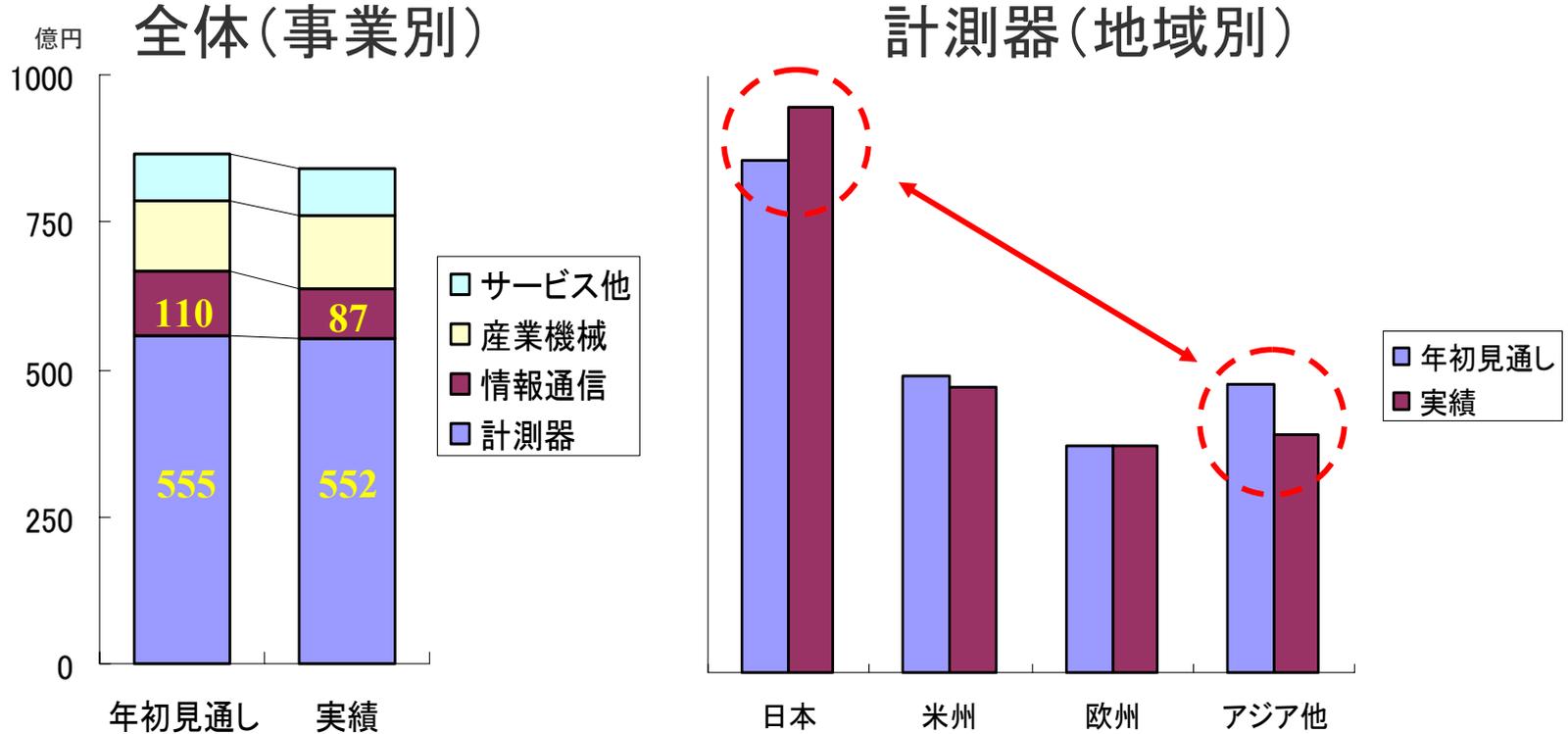


# 事業セグメント別受注推移（連結）

億円



# 2004年度売上の期初見通しと実績差異



情報通信は落込み  
計測器はほぼ予想通り

アジアの落込みを日本が  
3G用計測器でカバー

# 営業外・特別損益概要(連結)

(百万円)

△: 損失

	2005年3月期	2004年3月期
<b>営業利益</b>	4,862	1,808
金融収支	△ 869	△ 1,054
棚卸資産廃棄等	△ 1,581	△ 2,329
為替差損益	△ 88	△ 642
その他	△ 301	△ 297
<b>営業外損益計</b>	<b>△ 2,839</b>	<b>△ 4,323</b>
<b>経常利益</b>	<b>2,023</b>	<b>△ 2,514</b>
退職給付関係		2,573
棚卸資産評価損等		△ 3,481
固定資産売却益	542	4,857
その他	△ 487	436
<b>特別損益計</b>	<b>55</b>	<b>4,386</b>
<b>税引前利益</b>	<b>2,078</b>	<b>1,872</b>

為替 \$1=¥107 (FY2004)

# 連結キャッシュフロー概要

2004年度

①営業CF: 93億円

②投資CF: △10億円

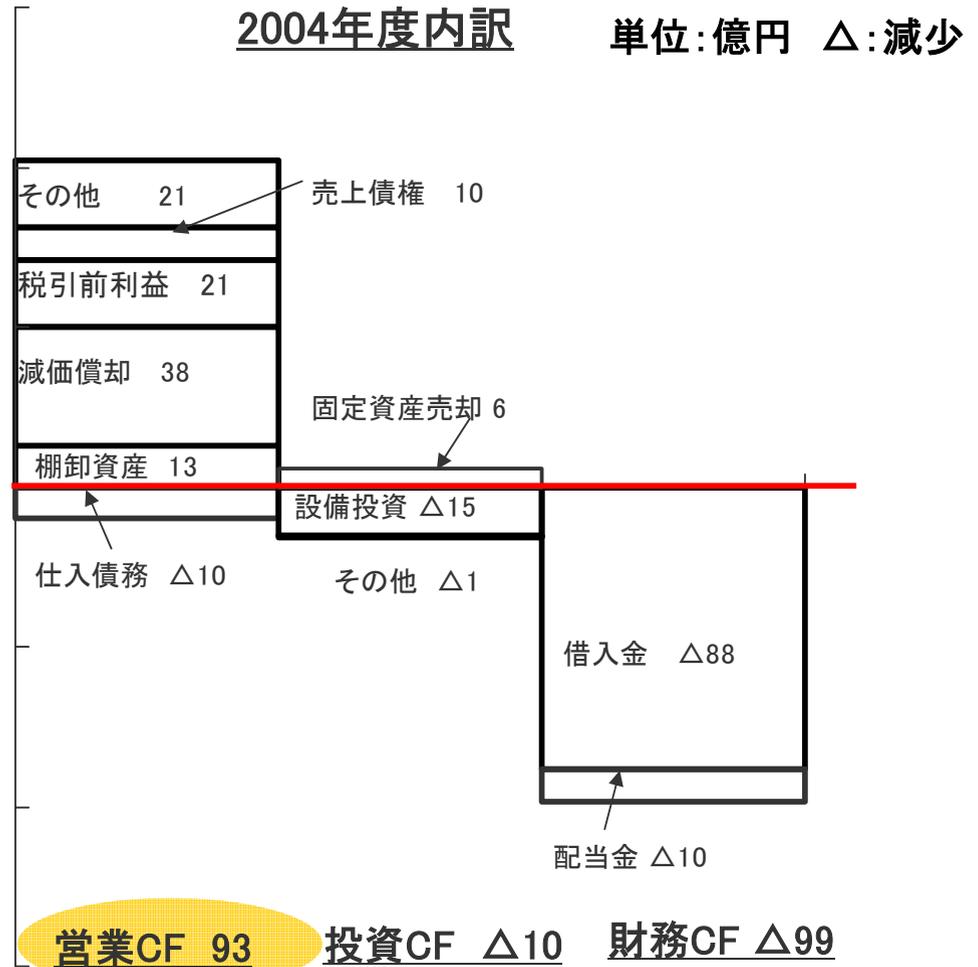
③財務CF: △99億円

フリーキャッシュフロー

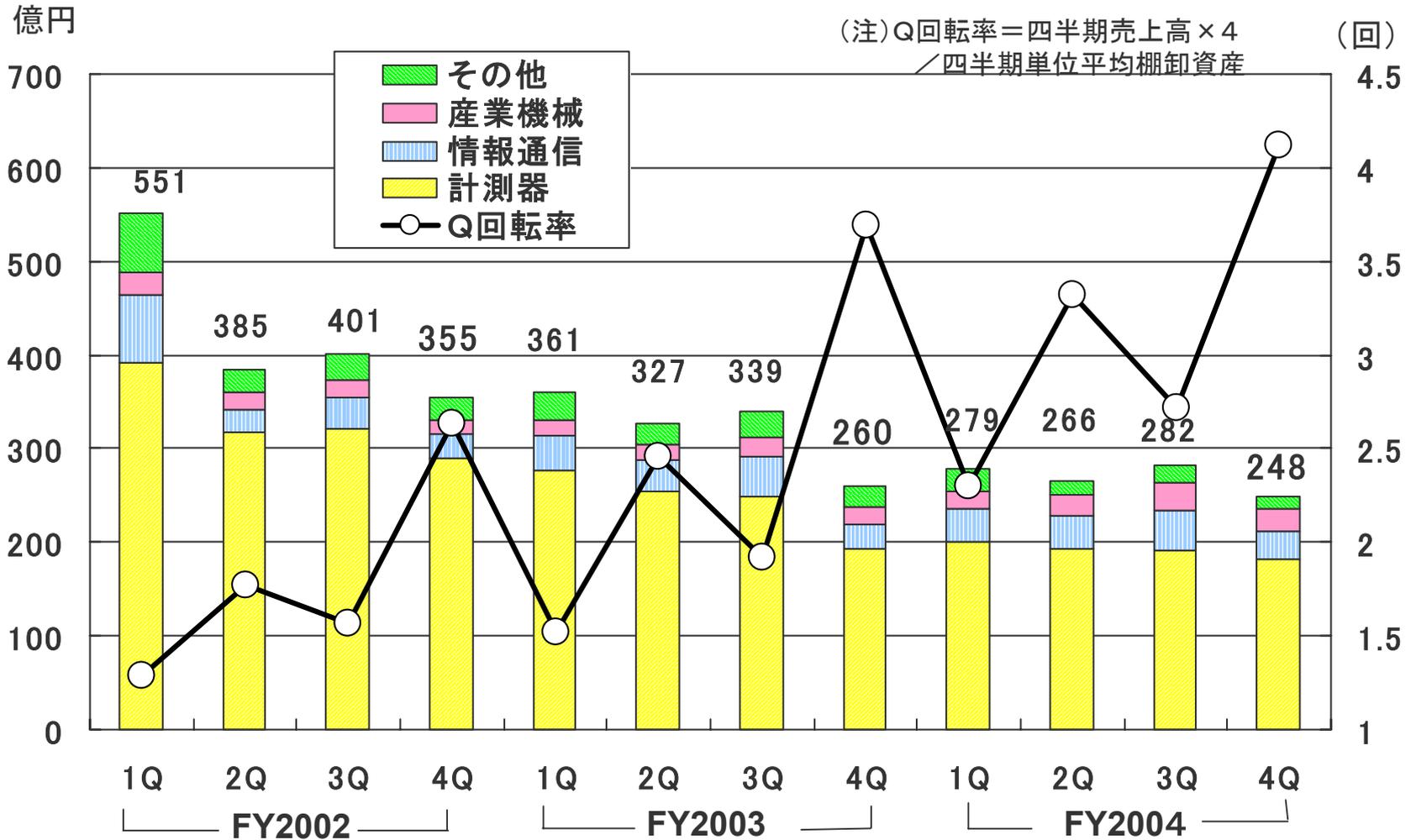
(①+②): 82億円

現預金の期末残高

337億円



# 棚卸残高推移(連結)



# 2006年3月期の業績見通し

## 「利益ある成長」の持続

# 2006年3月期 年度業績見通し

## (1) 損益及びキャッシュ・フロー

単位: 億円 ( )は前年同期比増減額 △: 損失

	2006年3月期(予想)				2005年3月期実績	
	連結		単独		連結	単独
売上高	920	(+80)	540	(+43)	840	497
営業利益	72	(+23)	35	(+16)	49	19
経常利益	42	(+22)	20	(+9)	20	11
税引前利益	42	(+21)	20	(+8)	21	12
当期純利益	35	(+22)	25	(+12)	13	13
FCF	60	(-22)	35	(+11)	82	24

## (2) 事業セグメント別(連結)

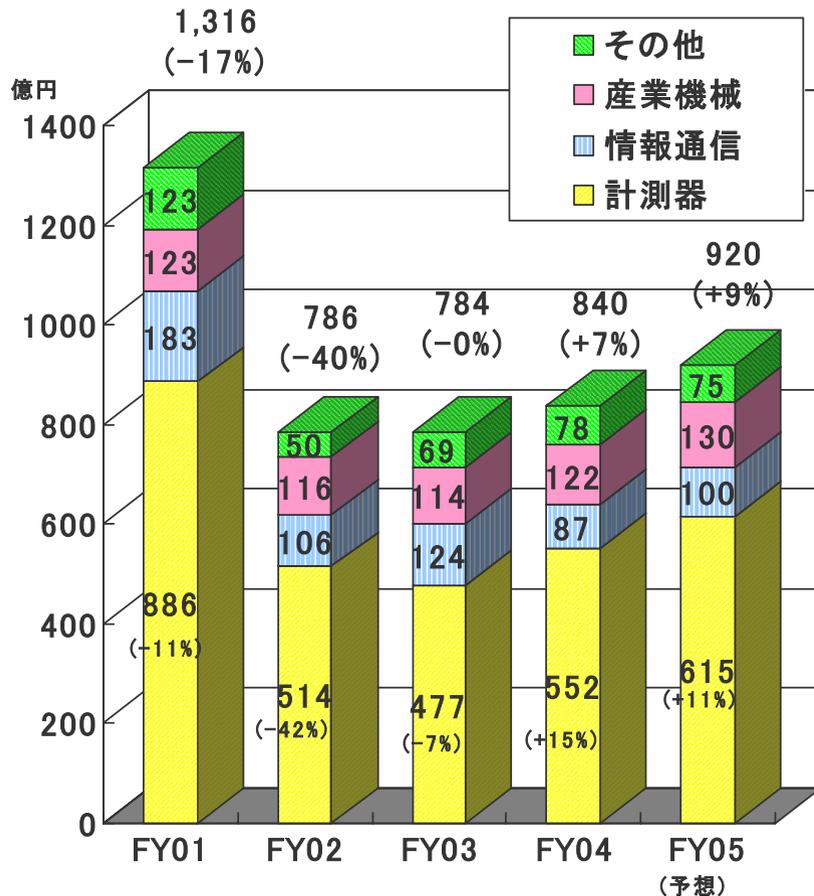
単位: 億円 ( )は前年同期比増減額 △: 損失

	2006年3月期(予想)				2005年3月期実績	
	売上高		営業利益		売上高	営業利益
計測器	615	(+63)	60	(+18)	552	42
情報通信	100	(+13)	△ 5	(+5)	87	△ 10
産業機械	130	(+8)	10	(+0)	122	10
その他	75	(-3)	7	(+1)	78	6
計	920	(+80)	72	(+24)	840	49

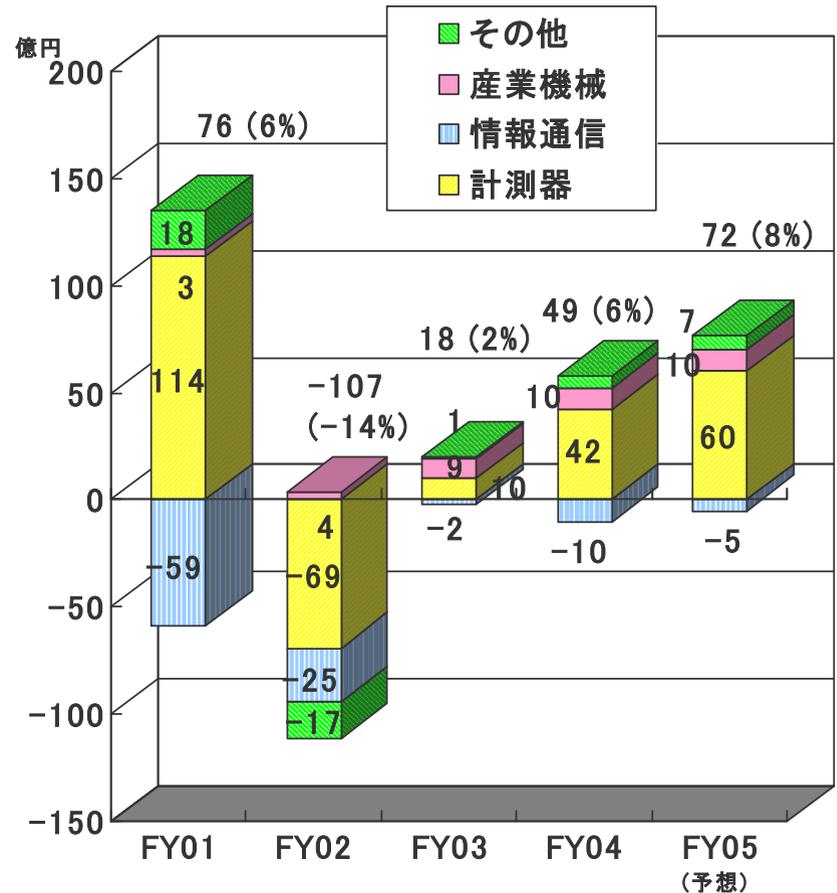
為替 \$1=¥100(FY2005)

(3) 配当 1株につき8円(中間配当4円)の予定 1円増配

# 事業セグメント別業績見通し(連結)

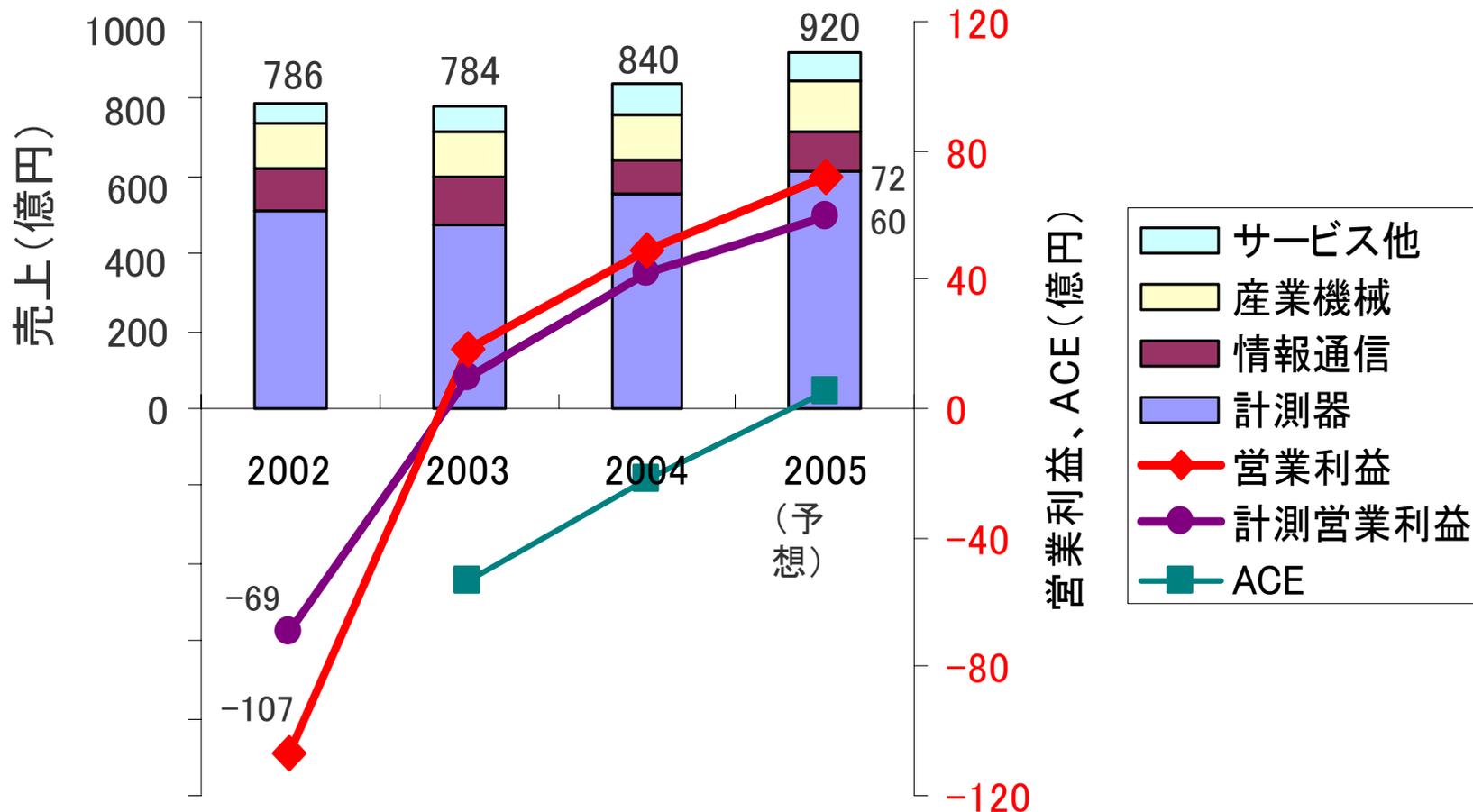


売上高 (%): 対前期伸率

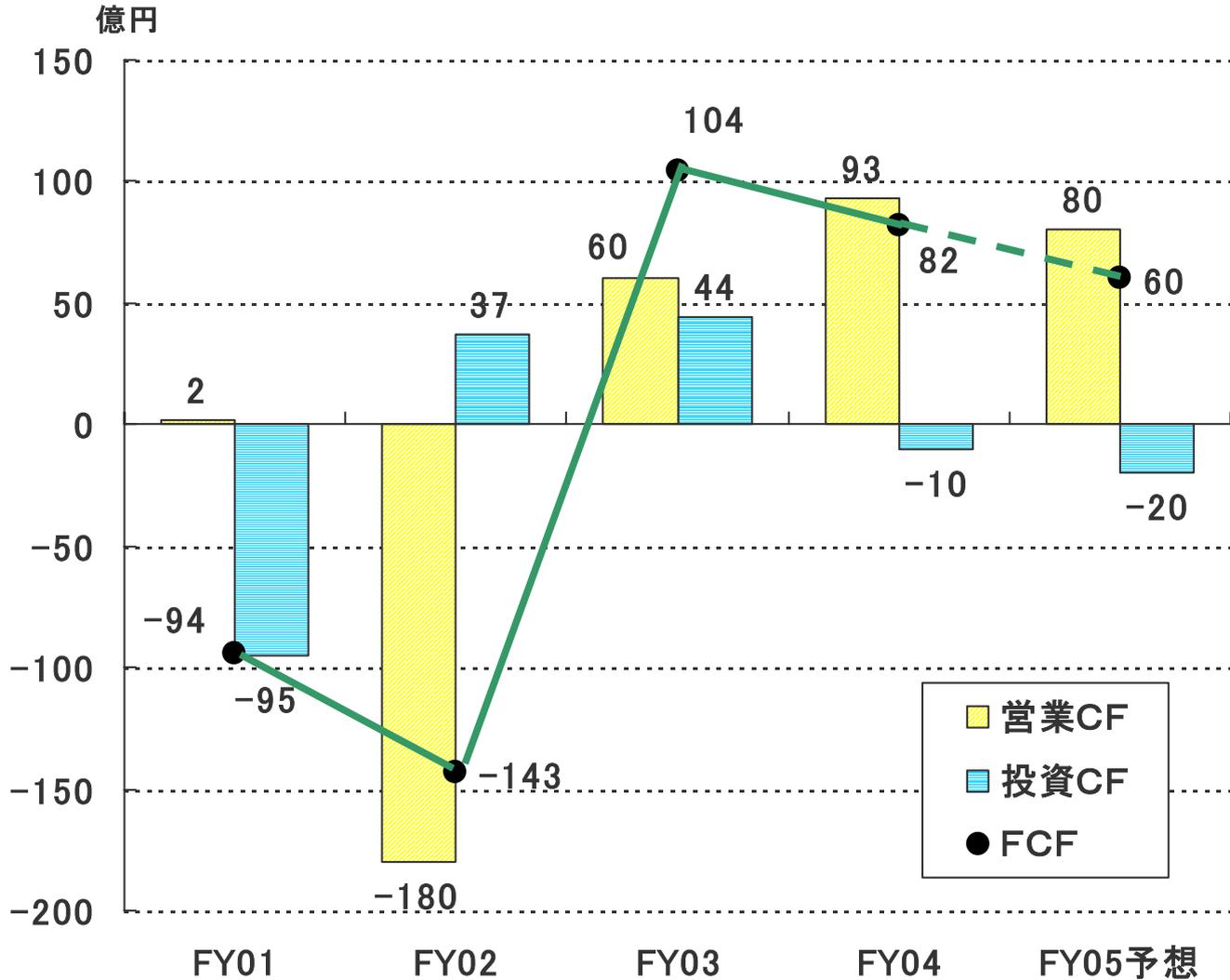


営業利益 (%): 営業利益率

# 連結業績推移 確実な回復

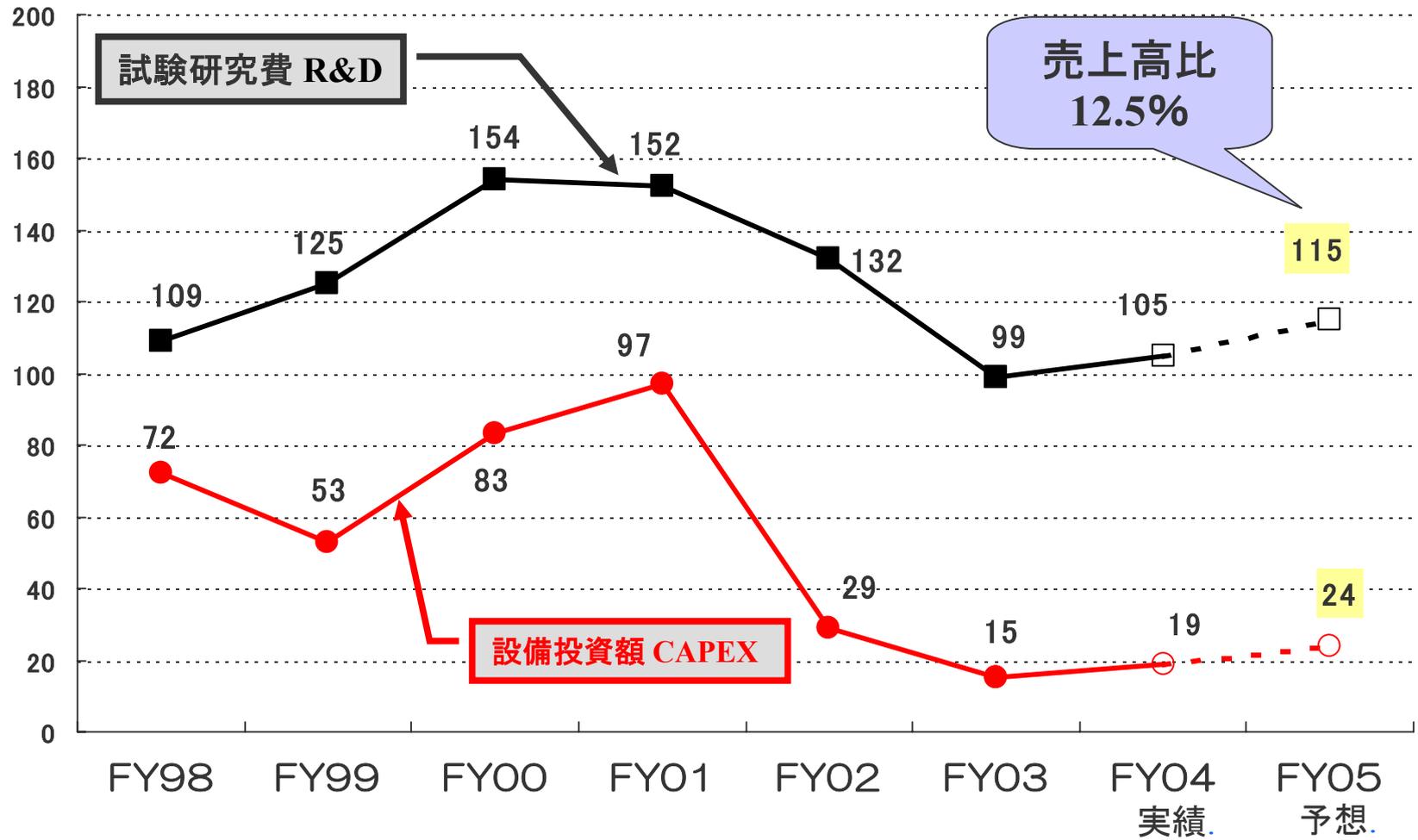


# キャッシュ・フロー見通し(連結)



# 設備投資額・試験研究費推移(連結)

単位: 億円



# 今後の事業展開

# ■計測器事業の市場環境

移動通信: **3Gの世界的拡大**はこれから

固定通信: **ブロードバンド投資**活発化

欧州



- ・3G事業者は拡大
- ・加入者数の緩やかな伸び
- ・アプリケーション競争へ
- ・モバイルデジタル放送

アジア



- ・欧米向け端末製造の立上りの遅れ
- ・中国の3Gの遅れ
- ・3GのR&Dスタート
- ・インドのソフト開発

日本



- ・FOMA\*の加入者数1150万突破(3月末)
- ・端末アプリケーションソフト開発の活発化
- ・FTTHの工事増加
- ・10GbEの拡大

米州



- ・シンギュラーの3G/HSDPA\*
- ・大手チップセットメーカーによる3G/HSDPAチップセット開発
- ・WiMAXのチップ出荷開始
- ・政府予算の削減
- ・FTTxの工事増加

Discover What's Possible™

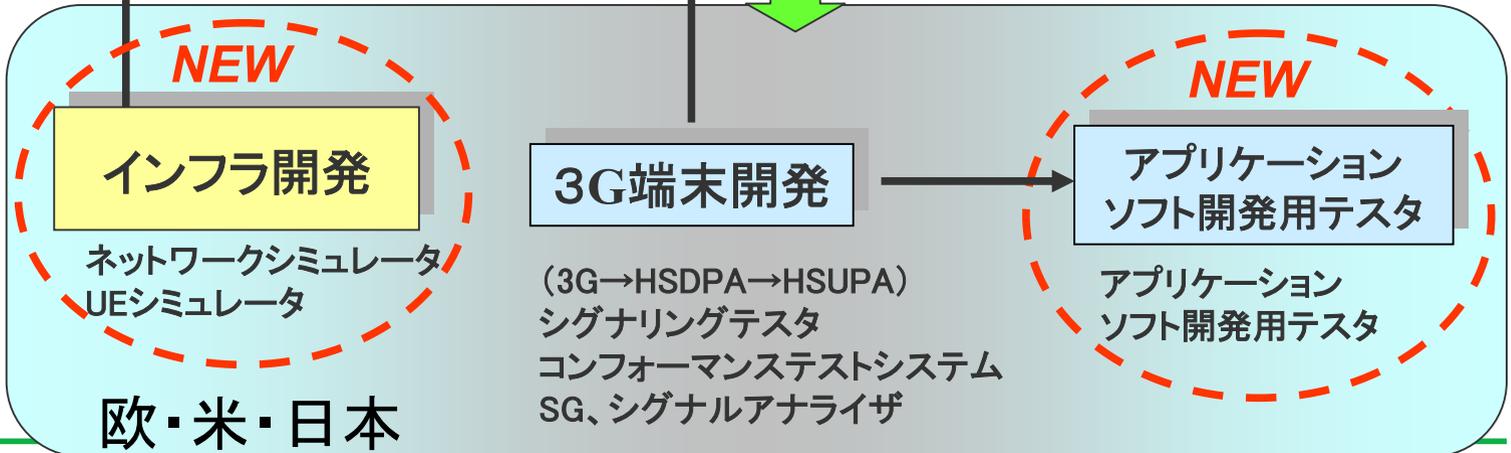
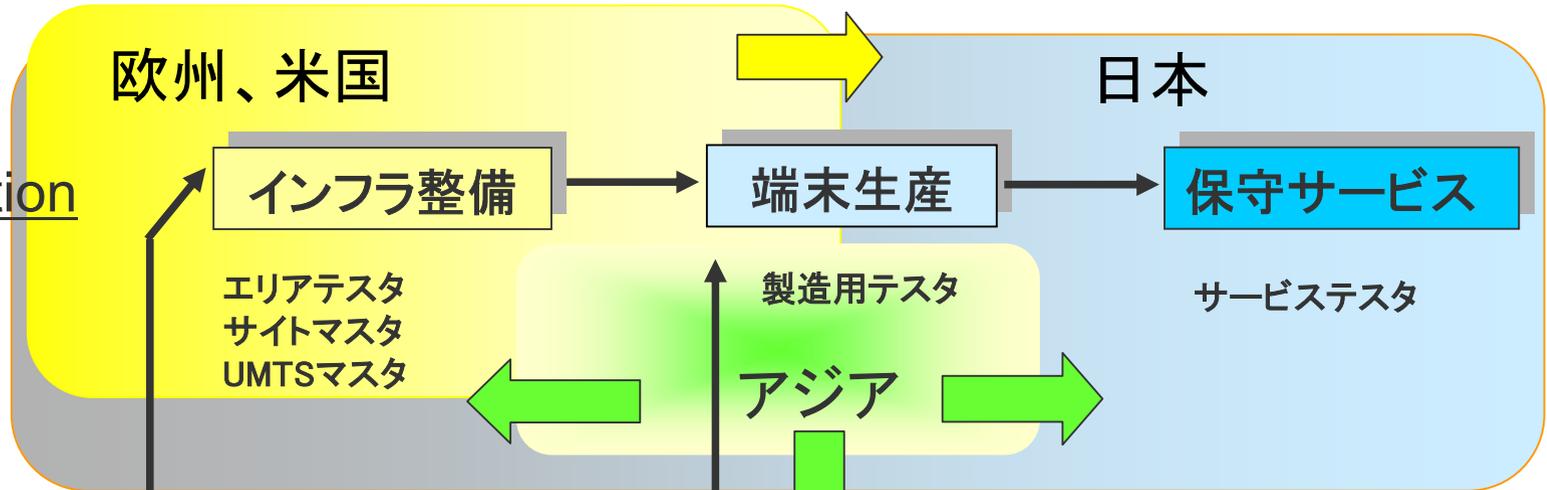
(\*)「FOMA」は株式会社NTTドコモの登録商標です。  
HSDPA (High Speed Downlink Packet Access)

Anritsu

# 3G携帯電話の計測器市場ステージ

- 3G 市場セグメントの拡がり
- 3G/3.5G開発用計測器の需要拡大

3G計測器  
売上比率  
(FY2004)



Discover What's Possible™

HSDPA (High Speed Downlink Packet Access)  
HSUPA (High Speed Uplink Packet Access)

Anritsu

# 3Gアプリケーション開発は新しい市場を創造



MD8470A

## 環境の変化

携帯電話事業者の収益構造が通信料からサービス料金へ

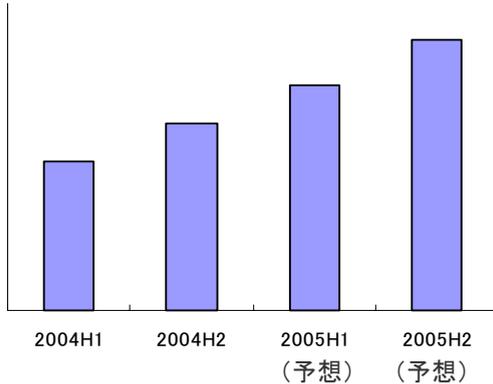
➡ さまざまなサービス競争時代へ

## 端末開発

端末組込用アプリケーションソフトが膨大な容量に

➡ ソフト開発の効率化が要求される

## 売上の伸び



## 計測器

ハード主体の計測器から、ソフトウェアの付加価値の高い計測器へ

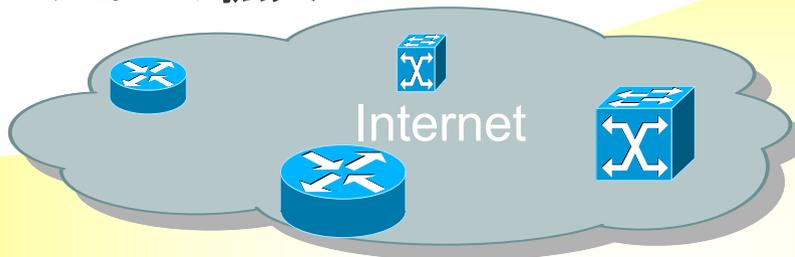
## 売上

国内大手メーカー中心から、3G端末普及とともに世界へ

# IPテストの需要拡大

## 日本市場 IPテスター 堅調な立上り

- ・キャリアの10Gバックボーン建設・保守の需要拡大
- ・IPのアプリケーションの拡大



**IP** 10GbE  
建設・保守

Access

**IP** ルーター  
テスト



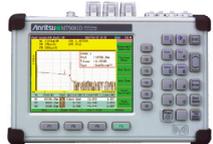
MD1230B

**IP**

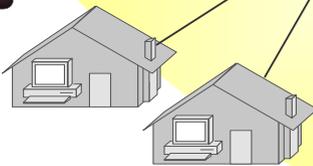
GE-PON

MT9080

ファイバー、  
IPテスト



FTTH



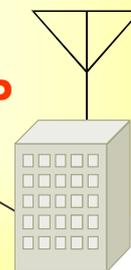
**IP**



WiMAX、W-LAN

携帯基地局  
IP化 開発

**IP**



Discover What's Possible™

Anritsu

# ■情報通信機器事業

プロダクトミックス改善と民需開拓により売上回復を図る

売上：FY2004 87億円 FY2005予定100億円（前期比+15%）

映像監視システム（官公需および民需）の成長

売上： FY2004 **21%** FY2005予定 **40%**（売上に占める比率）

自社で拡大： 河川・ダム・道路

アライアンス： 鉄道・地下鉄・空港・テーマパーク等

民需市場の開拓開始

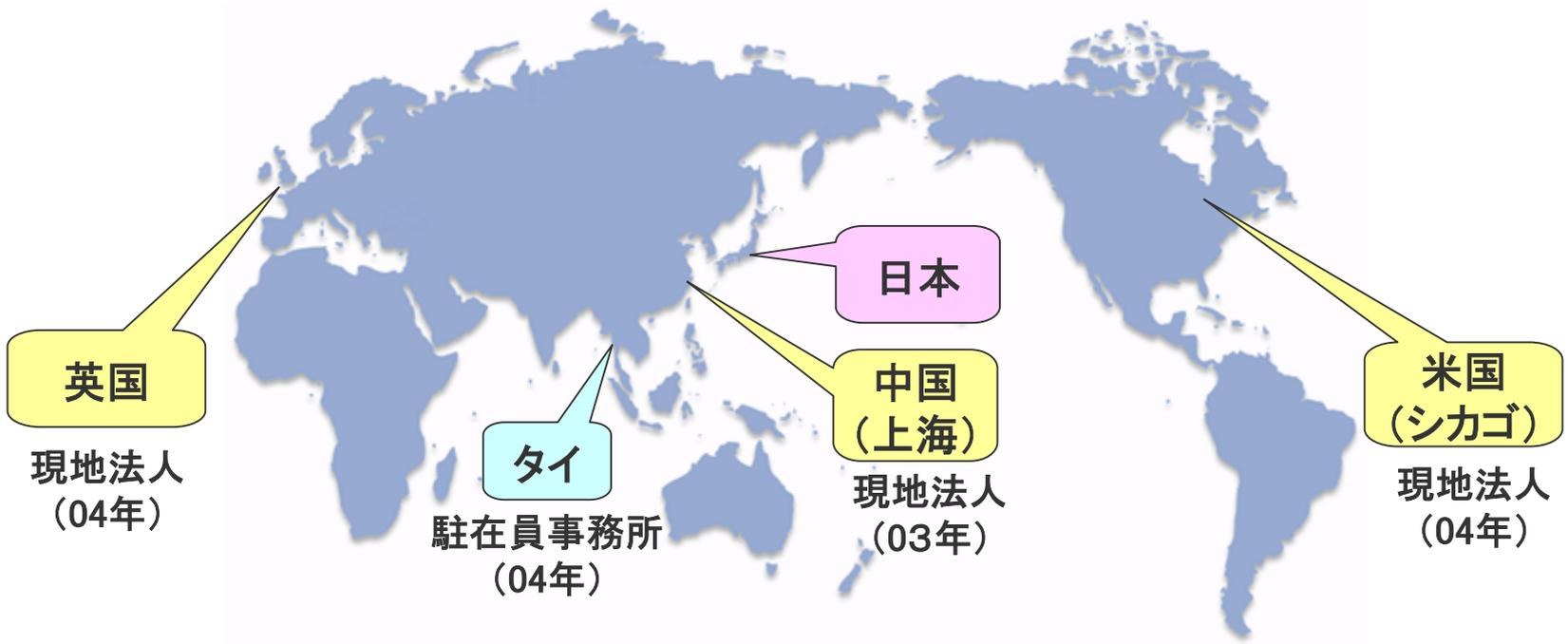
売上： FY2004 **28%** FY2005予定 **31%**（売上に占める比率）

積極的なアライアンスによる市場の拡大

# ■産業機械事業

05年度目標:売上130億円、営業利益10億円

- 国内市場は成熟、高シェアを維持
- 海外へ展開し成長を目指す  
新製品のX線異物検出機でグローバルな主要顧客を開拓



# ■今後のトップ人事とガバナンスの強化

## ■経営トップ および 取締役の変更 (6月株主総会予定)

代表取締役 兼 取締役会議長： 塩見 昭

代表取締役社長： 戸田 博道

社外取締役： 清田 瞭氏

大和証券グループ本社 取締役副会長

大和総研 理事長兼取締役

## ■計測事業トップ 執行体制のグローバル化推進

マーク・エバンス(4月)

計測事業のグローバルな経営を統轄

# 注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。